

優良後継牛生産への新技術（経膈採卵）の実用化

近年、全国的に乳用子牛等の後継牛相場の高止まりが続いており、酪農家においては、なかなか牛の更新がままならない状況です。

そのような状況の中、優良な系統の乳牛の子孫を数多く生産し、酪農経営に活かしていく方法のひとつが新技術の経膈採卵です。当所では平成27年度から経膈採卵の技術者育成や連携体制の構築、モデル農家での実証に取り組んできましたが、十分な成果が得られたため、29年度からこの新技術をより広く県内に普及していくこととしました。

普及指導課の役割としては、酪農家から要望があった乳牛について健康状態、発情周期等を酪農家から聞き取り、家畜保健衛生所が行う血液検査と総合的に勘案しながら経膈採卵が可能かどうかを判断します。実際の採卵作業は研究部門が主に行いますが、普及指導課は事前準備や当日の作業補助の他、酪農家、管理獣医師、家畜保健衛生所、県酪連など関係する機関との連携の中心となっています。

今年度の実績ですが、6農家7頭の経膈採卵を行い1頭当たり平均5.0個の移植可能胚を生産しました。この移植可能胚は新鮮、または凍結して一時保存後、受胎牛に移植されます。経膈採卵は酪農家からの要望も多く、これからも県内の優良後継牛生産の一助になっていくと考えています。



(写真) 実際の採卵作業

備考

経膈採卵（OPU）：牛の卵巣内にある卵子を膈内に挿入した超音波診断装置で吸い取り、体外受精によって移植可能胚を生産する技術。採卵成績の悪い牛、高齢や乳房炎等で過剰排卵処理を行えない牛からも受精卵を生産できる可能性があります。